

NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名 公益財団法人日本YWCA YWCA 活動スペース「カーロふくしま」

代表者名 代表理事 実生 律子

1. 事業名

カーロでスタディ

2. 事業カテゴリー

NPO パートナー協働事業 (COVID-19)

3. 事業期間 2021年5月1日 ~ 2022年3月31日 (335日間)

4. 契約金額

600,000円

5. 担当者名

佐藤 純子

6. 事業目的

新型コロナウイルス禍における、小中学校の臨時休校措置などによる学習やコミュニケーションへの影響、そして、アルバイトや仕送りの減少によって生じている大学生の学費や生活費への影響の課題解決及び新しいコミュニケーションの場の創設。

7. 事業の成果

- ・事業実施期間中の約1年の間にも、新型コロナウイルス感染拡大の波が何度か訪れ開催が危ぶまれた時期があったが、利用者である子どもたちとその保護者、講師の大学生との強い希望により、互いに感染防止に留意しながら開催中止を避け、1度も中止することなく無事に開催できた。
- ・2020年度夏休みにコロナ禍の緊急支援として開始した学習支援だが、2021年度にシビックフォースとの協働事業として支援を受けることにより、安定した運営開催を行えた。それによって、児童福祉・居場所づくりに興味を持つ大学生（講師）の活躍の場、年齢や学区に拘らない子どもたちの交流を深めることが出来た。また、1年間の継続開催により、運営のノウハウや地域との繋がり、子どもや保護者との信頼関係など基盤作りを確立することができ、次年度以降の継続運営に繋がる実績を積むことが出来た。
- ・講師大学生が「カーロでスタディ」を通して居場所づくりに興味を持ち、自身の経験を活かし、中高生を対象としたセクシャルマイノリティの勉強会やお茶会を企画し、2022年度からの開催に向け準備を進めるなど、新たな動きに繋がった。
- ・子どもの居場所として地域の方々に支持され、町内会の回覧板やポスター提示などで開催案内の協力を頂くことができた。

8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

(1) 学習支援「カーロでスタディ」開催(月2日(各日午前・午後開催))

※2021年5月30日から2022年3月20日まで、月2回午前・午後の計44開催。

※参加人数…参加者延べ106名、講師延べ45名

※9月は8日8日発令の「福島県まん延防止等重点措置」により、休校や変則登校が生じたことを受け、臨時に3回開催参加者14名・講師3名・スタッフ1名

- ・コロナ禍、特に「まん延防止重点措置」期間中の開催において、Zoomなどを利用したオンライン学習会も検討したが、講師より「教材を共有できない」「きめ細かい対応が難しい」「学習だけではなく交流にも主軸を置きたい」などの意見があった。子どもたち（参加者）に聞いても全員が「オンラインより対面」の意見であった。そのため、2021年度はオンライン開催を見合わせたが、一方、子どもたちが居場所としての楽しさを感じていることが伺えた。
- ・ひとり親家庭の保護者より相談があり、無償での参加を受け入れた。学びの機会が少ない子どもの受け入れも運営課題のひとつであったので、無償参加への保護者の心理的負担を無くすため丁寧に対応するとともに、保護者と話し合う中で自宅学習に対する親の負担や子どもの不安などの詳細を伺うことができ、次（2022）年度への課題へ繋がった。
- ・年間を通して定期的に開催することにより、講師とのやりとりや学習に取り組む姿勢といった小さな日常の中で、子どもたちの成長を日々感じる事が出来た。
- ・講師には家庭教師経験者もおり、子どもたち一人ひとりの学習の得手不得手、進捗状況、キャラクター、学習への取り組み方などを把握しながら、自主的に対応し、楽しく学ぶ環境を整えた。
- ・学習だけに留まらず、ゲームやおやつタイム、クリスマス会などで、小中学生と大学生という、離れた世代の交流と繋がりを持つことが出来た。

(2) 参加者や保護者、講師学生などとの親交を図る交流会開催(夏休み、クリスマスなど年2回予定)

※2021年12月19日開催。参加者14名・講師3名・スタッフ1名

- ・2020年度より念願であった交流会を「クリスマス交流会」として開催できた。企画中に感染者数増加やまん延防止重点措置発令により延期となっていたため、大きな課題が達成できた。
- ・町内会及び近隣住人よりお菓子、ピザハットよりピザ、Amazon みんなで応援プログラムよりお菓子や飲み物の寄付・差し入れなどご協力を頂き、改めて取り組みへの応援と賛同を感じた。
- ・密を避け参加者を分散するため、食事・プレイコーナーの分割や外遊びのローテーションを取り入れるなど、講師がプログラムやレイアウト設計を行い、無事開催出来た。こういった開催に関する経験が、次年度開催の実績とノウハウ作りに繋がると改めて実感した。
- ・保護者より「育成会の行事が中止になり、子どもが喜んでいて」「初めて会った子ども友達になれた、と喜んでいて」との報告があり、あらためてコロナ禍での新しいコミュニケーションの場づくりに取り組む必要があることを実感した。

(3) 学習時間を利用した保護者（特に母親）対象のお茶会開催(年4回予定)

- ・交流会同様、社会状況をうかがいながらの日程調整や会場設定が難しく、2021年度は子どもたちの交流会を最優先事項とし、開催を断念した。
- ・代わって、個別に2名の保護者（母親）に来所頂き、コロナ禍での学校や家庭内での様子、中止となっている保養(線量を避けるため県外の比較的の低線量地域で中長期間過ごし、参加者間の交流を図る取り組み)への見解や要望、カーロでスタディへのご意見などを伺った。

【保護者意見】

- ①学校はコロナ発生当初よりもかなり落ち着いた様子。ただし部活動や行事は現在も大きく制限されており、特に遠足や自然体験など校外行事が中止または縮小され、学校生活の思い出がなくなっている。
- ②家で過ごすことが多くなっている。遊びはゲーム中心になりがちなので、体力視力に影響がないか心配している。
- ③保養には参加したいが、現在ほとんど中止されているのはやむを得ない。今後の実施に関しては、今まで通りの団体行動は心配。参加人数の縮小や個別宿泊などを望んでいる。
- ④カーロでスタディでは、学区域外のお友達もできて楽しく過ごせているようだ。お菓子も小分けにしてあり、食べきれなかった分は自宅で美味しく食べている。
- ⑤幼稚園の妹がいる。兄妹一緒に参加できる場があるといいな、と考えている。

上記意見に対して、

- ・カーロでスタディでは少し年齢の離れた大学生が子どもたちの計画や様子を汲み取り自主的に場づくりに動いている。こうした緩く穏やかな雰囲気子どもたちも汲み取っているのではないかと。
- ・今後は子ども文庫設置により、年齢性別関係なく気軽に立ち寄りくつろげる場を作りたい。
- ・保護者（利用者）からのご意見や提案はとても貴重で新たな活動のヒントになる。また、負担のない形で運営にも参加できる取り組みを考え、共に居場所を作っていきたい。
- ・保養に関して、311 受入全国協議会主催の家族保養サポートの紹介を行った。

といった話し合いを行った。

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

- ・小中学生の母親層を対象とした地域生活情報紙、カフェなどでのポスター掲示やチラシの設置、関係各所への広報依頼、そして30~40代の女性保護者層へ向けたSNS発信なども行ったが、目に見える反響までには至らなかった。今後、既利用者からの口コミから新たな利用者に繋がる仕組みを検討したい。
- ・コロナ禍に於いて文書化されたガイドライン作成の取り組み。感染者数によって実施・縮小実施・中止の決断に悩む日々が多かった。一概には判断できないが、2022年度の実施に向けて、より安心安全な運営のためガイドラインの設定に取り組む。

【次年度への課題】

- ・2022年2月より「福島市子ども食堂NET」に加盟し、「福島市子ども食堂MAP」に掲載頂いた。

<https://fukushimaibasyo.beans-fukushima.or.jp/map/index.html>

地図による可視化で初めて分かったが、福島駅を中心とした旧市街地は、少子化と言うこともあり子どもの居場所が殆どなかった（郊外の住宅地に集中）。

地域の課題解決のために、カーロでスタディのノウハウを活かし、年齢に合わせた居場所作りの構築が出来ないか、子ども文庫の運営も含め、無理のない仕組み作りやニーズ調査を行い、次年度の取り組みとしたい。

- ・対面学習は近隣在住者や保護者送迎が可能な子どもに限られてしまうため、参加を断念した子どももいた。そこで、新たなフェーズとして、居住地による不均衡を解消するため、通うことが出来ない遠方在住の子どもを対象とした、オンラインを利用した遠隔学習サポートなどを模索したい。

10. 協力体制の構築

- ・1年間の事業を通し、
 - ①Amazon みんなで応援プログラムによる物品寄付を通じた広報とファンドレイジング
 - ②福島市子ども食堂NETへの加入（子ども食堂以外での居場所作りを展開する事業では初加入）など、新たな協力体制を構築することが出来た。これらの繋がり、カーロでスタディに留まらず、カー

ロふくしまの東日本大震災被災者支援事業にも関わる繋がりを生むこととなった。

- ・地域（町内会）からの理解と協力を得ることが出来た。子ども支援は自治会活動にも繋がる、ということで、ポスター掲示など主に広報で協力いただき、信頼を得ることが出来た。
- ・2021年度の講師は、福島大学の教授よりゼミ生を紹介いただいた。学生より「自身の経験と将来の進路に繋がる活動にもなっている」という報告が届いたようで、カーロふくしま全体の活動についても協力を頂ける信頼につながった。

1 1. Civic Force との協働について

「協働事業」という形での事業運営が初めてのため、当初は契約や運営方法などに戸惑うこともありましたが、月報の作成・提出によりひと月を振り返り次月に活かせることが出来ました。

コロナ禍のため、現場にお越しいただくことが叶わなかったのは残念でした。福島にお越しになることがありましたら、直接お目に掛かり見学やご意見など伺いたかったと思います。